

琵琶湖沿岸 3 水域におけるニゴロブナ 0 歳魚の採捕調査

杉江天音・根本守仁・片岡佳孝・寺井章人

1. 目的

ニゴロブナは重要漁獲対象種であり、その 0 歳魚資源尾数は近年低水準な状況にある。その要因の一つとして稚魚期以降(6 月以降)の成長不良による減耗が推測されている。稚魚期までの生態については知見が多数あるが、それ以降については不明な点が多い。そこで本研究では、稚魚期以降の基礎的知見の収集のため、琵琶湖沿岸のヨシ帯 3 水域における 6 月以降の成長について比較し、それぞれの特徴を明らかにすることを目的とした。

2. 方法

調査は長浜市延勝寺地先、近江八幡市牧地先および守山市赤野井地先のヨシ帯周辺において実施した。2024 年 6 月下旬～9 月上旬にかけてのニゴロブナ 0 歳魚の採集は、湖岸(水深 1m 未満)において張網およびヨシ巻網によって行い、赤野井では加えてビームトロール網での採捕を行った。9 月下旬～11 月上旬にかけてはやや沖合(水深 1～2m)において、電気ショッカーボート(以下 EFB)を用いて採捕した。張網、ヨシ巻網およびビームトロール網による採捕は概ね 2 週間毎、EFB は概ね 3 週間毎に実施した。サンプルは冷凍保存し、解凍後に鱗の輪紋による年齢査定で 0 歳魚を抽出し、体長を計測した。

3. 結果

ニゴロブナ 0 歳魚は、延勝寺では 7 月 5 日から 11 月 12 日、牧では 7 月 2 日から 10 月 25 日、赤野井では 6 月 28 日から 11 月 18 日にかけて採捕された。各漁法での採捕結果はそれぞれ表のとおりとなった。赤野井地先においては張網およびヨシ巻ではほとんど採捕されず、ビームトロール網と EFB の両方で

93.0%を占めた。EFB による調査では、牧地先で最も多く採捕された。

各地点でのニゴロブナ 0 歳魚の平均体長の推移を図に示した。10 月以降は平均体長がほとんど変化しなくなり、採捕最終日時点での平均体長は、延勝寺において 68.9mm、牧において 58.6mm、赤野井において 95.4mm であり、赤野井地先の 0 歳魚の成長が特に良好であった。

次年度以降はこれらの成長の差が生じる要因を調査するため、各地点の稚魚の消化管内内容物に加え、環境水中のプランクトン、ベントスから 3 地点の餌料環境の違いを解明していく。

表 ニゴロブナ 0 歳魚の採捕結果

	(尾)		
	延勝寺	牧	赤野井
張網	192	232	12
ビームトロール	-	-	116
ヨシ巻	199	184	8
電気ショッカー	45	191	151
計	436	607	287

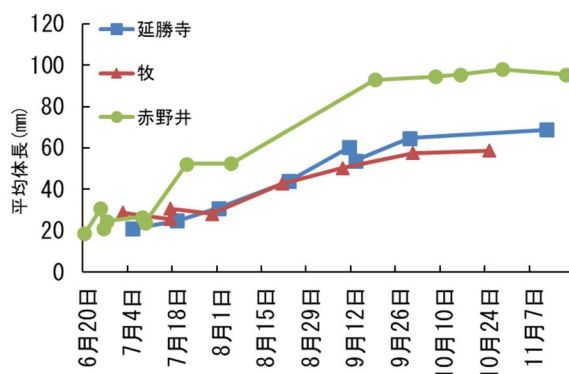


図 ニゴロブナ 0 歳魚の平均体長の推移